

研究区分：特別研究（個人）**研究課題：満足感のある出産体験についての
一考察****共同研究組織：**

代表者 藏本 直子（看護学部 助教／母性看護学）

研究経費：100,000円**研究実績の概要：****1. 研究の目的・概要****1) 研究目的**

現在、母子保健の国民運動計画として「健やか親子21」が推進されている。その中の検討課題に「妊娠・出産に関する安全性と快適性の確保と不妊への支援」が掲げられており、妊娠・出産についての満足度を高めることが達成目標の一つとなっている。出産は、女性にとって子どもを産み母になるという大きな喜びや幸せを感じる体験である。しかし、それと同時に陣痛や出産の進行に伴う産痛、また産痛の増強による不安は、女性にストレスを与え、危機的状況に陥らせる可能性も孕んでいる。どのように出産体験を受け止めたかは女性の主観的な認知によるものである。出産を否定的に受け止めた場合、産後うつ傾向になるなどの心理的健康問題や母性意識の発達に影響を及ぼすことが明らかにされており、出産体験の満足度を高めることは助産ケアの中でも重要な位置づけにあるといえる。

既存の出産満足に関する研究は、統計的手法を用いた要因分析の研究が多くみられる。しかしながら、女性は総体的な出産満足では予測困難な思いを抱いているとの指摘もあり、数量的研究では計り知れない女性の内面を深く追及した研究の重要性が問われている。そこで本研究では、出産時に女性が何を感じ、何を求めていたのかということを探り、満足感のある出産体験を構成する要因について質的に明らかにすることを目的とする。

2) 研究方法

A県およびG県内の助産所で出産した産褥早期の女性10名を対象に半構造化面接を行った。面接は承諾のもとにICレコーダーに録音した。調査内容は、出産体験に関する事柄について、出産の感想や出産時に感じたこと、現在の心境などを中心に自由な語りを促した。本研究のデザインは質的記述的研究であり、分析方法はインタビューから逐語録を作成して、記述されたデータをコード化し、類似性と相違性を比較しながらカテゴリーの抽出を行った。

3) 倫理的配慮

名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会の審査・承認を受けた後、対象者に対して文書と口頭による説明を行

い、同意を得た上で調査を行った。

2. 研究成果**1) 結果****(1) 対象者の属性**

対象者は、年齢18～38歳（平均28.4±6.2歳）であり、初産婦5名、経産婦5名であった。全員が正期産であり、妊娠・分娩経過が正常で、面接時の母児の健康状態は良好であった。面接は産褥1～6日（平均3.1±1.4日）に実施し、面接時間の平均は、46.3±17.96分であった。

(2) 満足感のある出産体験を構成する要因

10名の出産体験に関する記述データから、満足感のある出産体験を構成する要因に関して、「出産プロセスへの対峙と自尊心を高める出産体験」、「母児ともに健康な身体性」、「助産師による全人的なケア」、「出生児や家族との結びつきを実感」の4つのカテゴリーが抽出された。これらは各々のサブカテゴリーにより構成されており、全容は表に示した。

表 満足感のある出産体験を構成する要因のカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー
出産プロセスの対峙と自尊心の向上	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに出産に向き合えること 自己コントロール感と産痛への対処行動 出産への主体的な参加 達成感のある出産体験
母児ともに健康な身体性	<ul style="list-style-type: none"> 順調な出産経過 医療介入による身体的侵襲が少ない出産 母体の健康状態が良く、産後の疲労や苦痛が少ない安楽性 元気な出生児の存在
助産師による全人的なケア	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安楽に対するニーズの充足 人と人としてのかかわり 助産師へのゆるぎない信頼感
出生児や家族との結びつきを実感	<ul style="list-style-type: none"> 家族の重要他者の存在とサポート 出産に対する家族の肯定的な反応 出産直後からの児との密接なかかわり

2) 考察

満足感のある出産体験を構成する要因には、母児の安全性が保証されていることが土台となり、助産師から受けたケアの質が大きく影響していた。また、産婦と助産師との関係性において、人間性を尊重されるかかわりが産婦自身を主体的な出産への取り組みに向かわせ、自尊心を向上させることにつながっていた。助産師は分娩時のケアを行う際、これらの4つの要因について注目していく必要がある。

3. 研究成果の発表

日本母性衛生学会において発表および論文投稿（予定）。